

強勢台木を利用したイチジク「サマーレッド」の樹勢強化対策

～夏季の高温にも負けない強い樹体作りを目指して～

江崎 幾朗（知多農林水産事務所農業改良普及課）

【2026年3月掲載】

【要約】

イチジク「サマーレッド」において、連作した場合に生育が悪くなる忌地現象や夏季の高温による「しなび果」の発生を防ぐため、強勢台木として「ビオレ・ソリエス」を用い栽培状況を調査した。イチジク栽培を始めて約40年の園地で、「ビオレ・ソリエス」台「サマーレッド」樹と「サマーレッド」自根樹の生育を比較したところ、明らかに「ビオレ・ソリエス」台「サマーレッド」樹の生育が優れ、着果数も多かった。今後、「ビオレ・ソリエス」のような強勢台木の利用を広く普及させるためには、併せて接ぎ木方法を農家に指導する必要がある。

1 はじめに

イチジク品種「サマーレッド」は「柵井ドーフィン」の枝変わりであり、「柵井ドーフィン」に比べ、成熟期が早いことやアザミウマ類の被害が少ないことから知多地域では導入が進んでいる。イチジクの場合、挿し木で容易に発根するため、自根樹による栽培が通常行われている。しかし、「サマーレッド」自根樹は樹勢が弱く、夏季の高温により果実が萎縮して落果する「しなび果」の発生が多い。また、イチジクは同じほ場に苗木を改植する場合、生育が悪くなる忌地現象も見られ、栽培農家は対策に苦慮している。

知多地域では、「サマーレッド」の樹勢を強化するため、強勢台木を利用して接ぎ木栽培を行っている生産者がみられる。今回は強勢台木として「ビオレ・ソリエス」を用いた際の「サマーレッド」の新梢生育状況、着果状況などを調査したので紹介する。

2 試験概要、調査方法

調査ほ場：知多市山屋敷 雨よけ栽培 植栽して約40年経過

試験区 台木区：「ビオレ・ソリエス」台「サマーレッド」樹 2～3年生 3樹

対照区：「サマーレッド」自根樹 6年生 3樹

調査方法：台木区は1樹当たり10新梢、対照区は1樹当たり5新梢を調査した。2025年8月7日に新梢の段数、着果数を、10月3日に新梢の基部径（5～6節の間）、新梢長をそれぞれ測定した。

3 結果

（1）台木区の着果状況

着果数は台木区で22果と、対照区の9果と比べ大幅に多かった（表1）。着果段率も台木区で92.9%と、対照区の61.1%に比べ高かった（表1）。調査した8月7日時点では台木区に「しなび果」の発生は見られなかった。今回は事前に「しなび果」の発生状況を調査できなかったが、対照区で着果数が少なかったのは、「しなび果」が発生し落果した可能性も考えられた。

表1 「ビオレ・ソリエス」台が「サマーレッド」の着果に及ぼす影響

試験区	新梢の節数	着果数	着果段率
	節	果	%
台木区	23.8	22.1	92.9
対照区	14.7	8.9	61.1

(2) 台木区の新梢生育状況

台木区の基部径は16.0mmと、対照区の11.2mmに比べ大幅に太かった(表2)。台木区の新梢長は134.8cmと摘心したにもかかわらず、対照区の37.1cmに比べ90cm以上長かった(表2)。また、図1にあるように、台木区の新梢生育は対照区よりも明らかに優れていた。

このように、栽培開始から約40年経ったイチジク栽培ほ場において、改植により「サマーレッド」を栽培すると、自根樹では新梢の伸びは優れなかったが、強勢台木として「ビオレ・ソリエス」を利用し「サマーレッド」を栽培した場合、新梢の伸びが明らかに旺盛となり、着果にも問題はなかった。

表2 「ビオレ・ソリエス」台が「サマーレッド」の新梢生育に及ぼす影響

試験区	摘心の有無	基部径	新梢長
		(5~6節) mm	cm
台木区	有	16.0	134.8
対照区	無	11.2	37.1



図1 ほ場における台木区と対照区の生育状況(2025年10月3日)

4 まとめ

以上の結果から、樹勢の強い「ビオレ・ソリエス」を台木に利用した場合、自根栽培では樹勢が弱い「サマーレッド」の樹勢強化につながるということが明らかとなった。また、いわゆる

る連作障害である忌地にも効果が見られた。知多地域では「ビオレ・ソリエス」以外にも、「セレスト」など他品種を台木として利用した事例も見られる。今後、台木として用いた際、どの品種が樹勢強化に適しているか、農業総合試験場や他地域の農業改良普及課とも連携して調査し、強勢台木利用の普及を図る必要がある。

また、多くのイチジク生産者は接ぎ木をしたことがないことから、強勢台木の利用を進めるためには接ぎ木方法を併せて指導する必要がある。

Copyright (C) 2026, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.